



震災から2年 災害対策の重要性を再確認!!

東日本大震災からまもなく2年、皆さんは防災の意識の薄らぎを感じたことはありませんか？
地震や風水害などの災害から自身や家族の安全を守るには、普段から備えておくことが必要です。
万一の災害の備え、いざという時に役立つ災害対策を身につけておきましょう。

物資不足を防ぐ事前対策

東日本大震災時には、津波による道路寸断のため、物資の提供が遅れ深刻な問題となりました。また、津波の影響で自宅に帰れず手ぶらのまま避難した方も多くいました。その経験をもとに、様々な災害対策グッズが開発されています。

中でもお勧めなのが、災害時に必要となる道具と数日分の保存食が入った防災対策リュック。すでに中身がセットされている物も売られていますので、家族で話し合い、準備しておきましょう。



水は人間の「命綱」です

東日本大震災時には各地で断水し、道路寸断で給水車の到着も遅れるなど、水不足が大変深刻な問題になりました。人間は水なしでは3~5日しか生き延びることができないと言われています。また、負傷した場合を想定すると、安全で無菌な水の重要性は更に高まります。以上のことから、できる限り大量の水を備蓄しておくことは、最優先事項であるといえます。

■飲料水用のペットボトルをストック

ひとり1日約3リットルが必要。給水開始まで約3日間と仮定すると、4人家族で36リットルが理想です。2リットルのペットボトルで18本と、それなりの量にはなりますが、しかしこれはなんとかスペースを作っておきたくいもの。ただし消費期限には注意を。

■お風呂の水で生活用水を確保

お風呂の水を溜めておくだけで、200~300リットル程度の水を確保していることになります。これは通常時なら1世帯が1日のトイレ利用で使ってしまう量ですが、被災中に節約して使えば2~3日はまかなえます。他にも体を拭いたり洗濯したりとさまざまな用途で利用する生活用水ですから、飲める水である必要はありません。



様々な種類がある長期保存食

災害時には、食料不足も深刻な問題となります。そこで活躍するのが、長期保存食です。今では水だけで作れるフリーズドライのお米や、何年もふっくらした状態で保存ができるパンなど、様々な長期保存食が売られています。他にも、缶切り不要の缶詰類やキャラメル、チョコレート、飴玉、ガムなど、道具を使わず、カロリーが高く、噛みごたえがあたり長い時間口の中に残るような物を用意しておくことで非常時の飢えをしのごの役に立ちます。



停電時に大活躍の乾電池

停電時には、テレビやラジオをつけたり携帯電話を充電することができなくなり、被災時に重要な情報の入手が困難になります。

そんな時に活躍するのが「乾電池」です。震災後、ACアダプタと乾電池の両方を使用できる機器や充電器がたくさん売られるようになりました。停電時にラジオや携帯電話が使えることで情報を速やかに入手できますし、自身の安否を知り合いに伝えることができます。防災対策リュックに乾電池を入れておくのを忘れないようにしましょう。



ペットの避難訓練も大切

ペットにも事前の災害対策をしておくことが必要です。そのひとつが「しつけ」。例えば大勢の人が避難する避難所へのペットの持ち込みが規制されている場合に、外でおとなしくしていただけるか、住む場所が急に変わっても部屋やトイレをスムーズに覚えられるか、日ごろから災害時を意識した「ペットの避難訓練」もしておくことで、いざという時にスムーズに避難することが出来るでしょう。



『ヒヤリハットアンケート』の提出をお願いします。

別途配布する『ヒヤリ・ハットアンケート用紙』に記入し、事業所管理担当者に提出してください。
手渡しその他、管轄営業所への郵送でもかまいません。